瓦谷山

瓦谷山だより

発行日 2013年12月吉日
発行人 （宗）真光寺
岡本和幸
印 刷 現代社
編 集 （宗）真光寺

問い合わせ先
（宗）真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
http://www.shinko-ji.jp/
○上総自然学校HP
http://www.shinko-ji.jp/satoyama/
○お寺ブログ【瓦谷山たより】
http://sinkoji.cocolog-nifty.com/news/

vol.24

ごあいさつ

スズメとツバメの戦争続記と知恵

今年の真光寺の米の収穫量は、ついに三トンを超えました。三トンの米を三十キロの米袋に入れると百袋になります。これを収穫し倉庫に入れる作業は、実に大変でした。食品の偽装がいろいろ取り沙汰される今、生命の根幹となる主食には生産者の顔が見える安心・安全なお米を選びたいものです。真光寺のお米は二百五十種類の残留農薬検査で残留農薬不検出とされ、放射性物質も検出されていません。お値段はやや高めですが、里山保全活動の一環としてご協力いただければ幸甚です。

平成二十五年五月の連休明け、去年に比べ一か月遅れてツバメが真光寺にやって来ました。本誌二十一号で紹介したように、昨年のツバメはスズメとの壮絶な戦いに敗れ、子育てに失敗してしまいましたが、今年はどうなることかと注目していました。

すると今年のツバメは回廊の電球の上という、ちょっと不便そうな場所に営巣しました。去年のツバメは棟の上の開けたところに営巣した結果、多くのスズメの攻撃にさらされることとなりました。最後はスズメが巣の中に入り込み、体を使ってグリグリと巣を破壊してしまったのですが、今年はスズメが入りにくいところを選んだのでしょうか。さらによく観察していると、去年のツバメは両親の二羽で子育てをしていましたが、今年は四羽で子育てをしているようでした。ツバメにはカップルになれなかった者や、去年の子供が子育てを手伝う習性があるそうです。どうやら集団的自衛権を行使したようです。昨年よりも一ヶ月遅れての営巣も良かったように思います。雛の巣立ちの時期がスズメと微妙に違っているように感じました。

電球の上という不安定な場所での子育てで、雛が落ちること四度、その度に人間が巣に戻し、無事四羽のツバメの子供が巣立っていきました。昨年のツバメと今年のツバメが同じツバメかどうかはわかりませんが、去年の教訓を生かすとともに、人間の力を最大限借りた彼らの子育てを目の当たりにして、見事な知恵だと感心しました。

道元禅師は『正法眼蔵』の中で様々な仏教用語を上げられ、これを「般若」であるとされます。「般若」とは知恵のことです。道元禅師は、「知恵とは特別なものでなく、私たちが記憶したり考えたり、物に名前をつけたりすることが知恵である」と説かれています。私たちの知恵はよいことに使えばよくなる可能性を持ち、悪いことに使えば悪くなる可能性を持つものです。スズメとツバメのお話にたとえると、昨年のように争ったり仕返しをすれば、命を危険にさらし、怨根を生みます。今年のツバメのように知恵を棲み分けの方に使えば、子供も巣立つことができ、また自らの命の危険もありません。

現在、世間は特定秘密保護法案で揺れています。人間は知恵を持つがゆえに秘密を作ります。秘密を作れば作るほどさらに秘密が増え、猜疑心が増殖し、争いのもととなります。天地自然、動物たちには秘密はありません。国家の方向性のみならず、自然環境の激変や、自殺者や心の病の激増など、知恵をどのような方向に使うのかが、今日の重要な課題になっているような気がしてなりません。より良いいわゆる「仏の知恵」が必要な時代です。

「仏の知恵」とは、人間が理想的な方向へ進むための知恵のことです。理想は人それぞれに違いますから、どのような理想を持つかによって人生の方向性が決まります。私たちの願いが知恵の方向性を決めるのです。よい願いを持つことが何よりも大切であると思います。「一年の計は元旦にあり」といわれます。どのような願いを持つべきか、よく考えたいものです。

真光寺ではお正月三が日、さらには二月までの諸行事の中でご祈祷を行います。一年の願いを仏に祈る行事です。皆様のご参詣をお待ちします。また真光寺ではいろいろな催しを企画しています。本誌上に掲載しておりますので、ぜひご参加下さい。

住職　岡本和幸　合掌

行事報告

◇縁の会施食会〔七月七日・八月三日〕
◇山門大施食会〔八月九日〕

近隣の諸老師を招きお盆の恒例行事である施食会を行いました。八月九日の山門大施食会では、鴨川市長安寺ご住職 大山文隆老師のご法話をいただきました。大山老師は、ハワイで生まれ育ったため、英語を混ぜながら、お盆についてのお話をされました。

8月 山門施食会にて法話をされた大山文隆老師

施食棚には沢山の供物をお供えし有縁無縁の精霊に食を施します

施食棚に向かい焼香

◇七日法要〔九月七日〕

午前は授戒式（授戒者十三名）月例供養、午後は坐禅と写経を行いました。

血脈について説明する住職

昼食の献立（七日法要）

- 白米 真光寺の禅菜
- 長茄子の味噌汁
- 白ゴーヤとオクラの炒めもの
- かぼちゃの豆腐
- 瓜の漬け物

《かぼちゃ豆腐のレシピ》

材料：かぼちゃ１／４・本葛50グラム・だし汁（常温）500cc

❶かぼちゃは皮をむき、柔らかくなるまでゆでます。柔らかくなったら、かぼちゃだけ取り出し裏ごしします。このときゆで汁は捨てないで取っておきます。
❷だし汁に裏ごししたかぼちゃを入れ、次に本葛を入れてよく混ぜます。
❸混ぜている状態から火にかけて弱火でじっくりと練っていきます。鍋底が焦げないよう、もったりとするまで練り続けたら、火を止め、型に流し入れます。数分後、表面が固まったら水を流し入れ、表面が乾かないようにします。
❹冷めて固まったら、型からはずし切り分け、上から❶のゆで汁をしょうゆ・酒・みりんで味を調え、片栗粉で銀あんにしたものをかければできあがりです。お好みでカイワレや胡麻・わさびなどをのせてもおいしくいただけます。お正月料理にいかがでしょうか。

◇仏像彫刻体験〔九月十八日〕

この日初めての開催となった『仏像彫刻体験』彫刻刀の研ぎ方からはじまり、地紋掘りの基本を学び、お地蔵さんを掘りました。今後も定期的に開催致します。詳しくは行事予定をご覧下さい。

◇山門秋彼岸法会〔九月二十二日〕
◇縁の会秋彼岸法会〔九月二十三日〕

山門彼岸法要では、今回で真光寺三回目となる津軽三味線演奏者の 浅野 祥 氏による演奏会が行われました。

浅野 祥 氏の津軽三味線演奏会

縁の会総会報告

十一月三日（日）、第三回真光寺縁の会総会を開催いたしました。

■首座法戦式

・手島涼仁師の首座法戦式を行いました。

一人の僧侶につき一回のみ、また公開の有無もあり、一般の方が目にすること自体が珍しい法戦式を総会のプログラムに組み入れました。ここでは僧侶の一大行持である首座法戦式を振り返りながら解説してみたいと思います。

首座とは…僧侶が集合し、一緒に修行する期間の中で（結制安居という）先頭に立って指導する役職。手島師は師匠である岡本方丈より首座として師匠の代わりに説法することが許される。

法戦式とは…その安居期間の修行における問答を古事にならって儀式化したもの。首座として法戦式を終えると、その僧侶は「座元」という位になる。そのためこの儀式は和尚になるための第一関門、昇進試験ともいえる。

法戦式は次の差定（式次第）で進行します。

◎前日

①首座入寺式

力量のすぐれたもの（手島師）を首座としてお寺に迎えます。

首座として迎えられる手島師

②本則配役行茶

配役の発表と明日の法座を首座に譲ること、また修行上の注意を知らしめ、了として、お茶を飲む儀式。事前打合せといったところ。

皆さんでお茶を頂きます

◎当日

③首座法戦式

・巡版～殿鐘三会　大衆上殿

鐘が打ち鳴らされると、修行僧が集合します。

・上方丈

役付きの僧が、住職をお迎えに行きます。

・大擂上殿

問答が始まりますので、大きな太鼓を激しく打ち鳴らして、導師をお迎えします。

・献湯菓茶

問答を前に、本尊に蜜湯・菓子・茶を献じます。

・普同三拝

献じた後、全員で揃って、礼拝をします。

大衆上殿
厳粛な雰囲気

巡版
お手伝いです

・般若心経

問答を前に、読経を行います。

・挙則

いよいよ問答が始まりますが、その前にどんな問答を行うかを、首座が全員に聞こえるように大きな声で知らせます。

・拈竹篦

問答を行う場合に持つ仏具を竹篦（しっぺい）といい、それを導師から借りて、首座が持ちます。

・法問

準備が整った首座に対し、順番に問答をかけます。

・謝語～散堂

問答を終えた首座が、御礼を言います。首座はお祝いの言葉を受けたのち、ご本尊に礼拝し、退出して法戦式は終わりとなります。

法問　怒号の応酬！！

拈竹篦
問答が首座に任されます。

挙則
大きな声に一般の方は驚かれます。

■月例供養

11月の月例供養を法戦式後に開催いたしました。

■総会

・平成二十四年度会計報告をいたしました。

・過去の総会での要約点をご報告いたしました。

過去の総会記録　要約抜粋

①樹木葬墓苑お参りのご案内

▼墓苑内での火気の使用は山火事の恐れがありますので、所定の場所を除き線香を含めご遠慮ください。

・桜の苑の前に線香立を設置してあります。

・屋内では観音堂に線香立をご用意してあります。

▼供物を含む品物や人工物の放置、設置はご遠慮ください。

・放置されていた場合には撤去いたします。

▼供え花を植え付けする場合、植えつけることのできる範囲は碑の周囲に限り（ポット2周までを範囲としてください）、またその種類は一年草に限ります。

・上記以外にあたる場合には除草作業の際に撤去いたします。

▼墓参での除草は土の流出につながるため、刈取りをおすすめしています。

発生したゴミは原則持ち帰りください。草花は土をよく落したものであれば寺で処分いたします。

②樹木葬墓苑の管理

▼現在、下草の刈取りを行っています。天候により管理工程以上に繁茂する場合もありますのでご理解のほどお願いいたします。

③その他

▼現在、真光寺からＪＲ袖ヶ浦駅、バスターミナル、ドイツ村までの送迎を行っています。ご法事、お参りなどにご利用ください。

・施食法要では東京駅からの直通バスを出しますのでご利用ください。

▼ペットの埋葬ができます。詳しくはお問い合わせください。

・質疑応答と要望事項

問：木の名前をわかるようにしてもらいたい。

答：名札の設置は過去にも全樹木に取り付けしたことがあります。しかし、材料の問題からほとんど落下してしまいました。

今年度の植樹祭では新たな材料で名札をつける行程を加えていて、そうした材料の経年変化を観察しながら実行していきます。

問：数年に一度実施される植生調査についてわかるものがあれば公開してほしい。

答：資料は寺務所にありますので、必要な方は事務所にて問い合わせいただければ、差し上げます。

問：植栽の病虫害対策はどのようにするのか？

答：寺院墓地ですので、農薬、殺虫剤による維持はしません。現在の樹木葬墓地の状態は弱い植木と強い植木が混在している状況です。これから淘汰によって倒れる木とそうでない木が発生して森として生育していくものと考えています。

樹木葬自体がまだ始まって間もない試みで、私たちも試行錯誤しながら管理方策を検討しているという点をご理解ください。

問：山頂に墓参者用の水栓が欲しい

答：そうした需要があることは把握していますが、現状では水圧が足りず、ポンプを取り付けるとなると大きな支出となります。雨水を利用するなど方法があるかと思いますが、それを含め施設的な検討を行っている最中です。

問：区画の案内表示のようなものが欲しい。

答：方法、材料含め検討をしていました。近い将来、設置の予定でいます。（以上）

恒例の野菜直売も。
おいしいと評判です。

天候も最後までもちました。

■演芸会・抽選会

十四時からは芸人さんをお招きして、演芸会を催しました。笑点などにも出演する「キャラメルマシーン」さんの実力派コメディーマジックには、爆笑と驚きの声が絶えませんでした。

前に座ったのが…檀上で大活躍

大抽選会。一等はこれも恒例となったお米１０キロ！

来年もよろしくお願い申し上げます。

真光寺日記

法戦式体験記

手島　涼仁

問　作者は、三界唯心、何れの処にか心を求めん。乞尊意。
答　汝の面前の坐具、是れ何ぞ。
問　中々、何を喚んで三界と作すや。
答　汝が心を三界と作す。
問　尊意、尊意。
答　帰家、穏坐すべし。
問　正得、三界出入の時、如何。
答　三界を呑却すべし。
問　珍重。
答　万歳。
問　珍重

「その珍重、待った」と大声が私の右側から聞こえてきた。通常の法戦式であれば、珍重、万歳、珍重と続くと、万歳で終わる。それが続いたのである。

「首座法戦式（しゅそほっせんしき）」は、曹洞宗の僧侶において非常に大切な通過儀礼の一つとされている。通常、曹洞宗の僧侶になるためには、一、師匠に就いて「得度（とくど）」し、二、両大本山はじめ各地にある修行道場で一定期間、修行をし、三、「首座法戦式」を執り行い、四、「嗣法（しほう）」し、五、「瑞世（ずいせ）」を行って、はじめて「和尚（おしょう）」となる。私は首座法戦式を執り行ったことによって、立場としては「上座（じょうざ）」から「座元（ざげん）」となった。まだまだ和尚と呼ばれるには、いくつかの儀式を行なわなくてはならない。

お釈迦さまが生きていた時代、遠くインドの地では雨季には歩くだけで多くの生き物を殺生してしまうため、外に出て修行しなかったようである。そのような時期、修行僧達は精舎（しょうじゃ）と呼ばれる場所に集って修行を行った。この行為を「安居（あんご）」と呼んだ。安居はインドでは雨季のみであり、「雨安居」とも「夏安居」とも呼んだが、中国に伝わると夏と冬の二回の行持になったようである。例えば、私が昨年永平寺に修行に行ったことを、僧侶の間では、「安居した」という言い方となり、同じ年に修行に入ったいわゆる同級生を「同安居」と呼んでいる。安居期間中、いろんな約束事（制度）がありその制度を結ぶという意味で、安居期間中のことを「結制（けっせい）」とも呼んでいる。そして結制中、自ら修行僧の中に入り先頭に立って指導する役職を、「首座（しゅそ）」と呼んだ。住職の隣に坐り、その補佐をしながら修行するためそう呼ばれたようである。

さらに、お釈迦さまが霊鷲山（りょうじゅせん）において、弟子の迦葉尊者にご自分の席を半分ゆずって説法を許されたという故事にならい、住職に代わって仏道の肝心なところを、修行僧に説法する儀式が出来た。そして徐々にこの儀式が実用的となり、首座と修行僧達とで激しい問答を行うようになっていった。この様子を、首座が法を戦わせるということから、「首座法戦式」と呼び、現在に伝わっているのである。

十一月三日、真光寺縁の会総会に先立ち、午前十一時より厳修された法戦式。曇天の空模様ながら多くの会員様に見守って頂き、大変ありがたく身の引き締まる思いだったことは今でも胸奥に大切に仕舞ってある。緊張しながらも一つ一つの進退（所作のこと）を丁寧に行い、はっきりとした大声で挙則（こそく）を読み上げ、竹篦（しっぺい）を堂長から借りていよいよ問答を始める。予定の問答は五問。内容を理解した上で暗記して臨んだ。大声を出すと頭が空っぽになるように感じるのは、私だけではないだろう。暗記したものも吹っ飛ぶ勢いで、しかし流れるように問答を繰り返し、なんとか五問目を終わろうとして安堵していた時、冒頭のように「待った」がかかった。これからはアドリブで問答をするしかない。

待ったの一問目は、兄弟弟子となる東長寺の弟子、遥風師より、法を嗣ぐということはどういうことかという問。二問目は、縁の会事務局の椎野さんより、私にとって僧侶とはどういう人をいうのかという問だった。二人とも私と縁が深く、年下だが大切な友人でもある。突然の問であったが私なりの言葉で返した。二人には大いに感謝している。そして最後に書記という立場でこの法戦式を取り仕切って頂いた大御師より、本日参集して頂いた方に対する気持ちを述べよ、という問だった。一三〇名余りの多くの会員にこの姿を見て頂いたことの感謝の気持ちを述べさせて頂いた。ようやく「珍重、万歳、珍重、万歳」と続き、法問を終了。全部で八問。僧侶として一歩階段を上った充実した気持ちで、残りの法要を行い、法戦式を終えることができた。この日のことは一生忘れ

ることがない、という一日だった。

冒頭の法問は、全ての存在は心であるというが、いったいどこに心があり、何を三界というのかという問いに対し、あなたの心こそを三界といい、ここに落ち着くことが大切であり、その三界に捉われてはいけないことを示している。今の私は、日々の生活を含め修行中の身。これは一生続くことは間違いなく、その間様々な出来事に遭遇することだろう。しかしその一つ一つに一喜一憂することなく、平静にそして真摯に向かい合っていきなさいという戒めと、この問答は問うているのではないか。この法戦式を通じて私は成長したのだろうか。単なる儀式の一つとして済んだことにせず、今後も仏道修行に励むための一里塚として胸に刻む、そんな一日だった。

法戦式を厳修するにあたり、多くの僧侶の手を借りました。千葉県宗務所職員はじめ千葉県内の僧侶の方々、現在は東京四谷の東長寺にて同じ職員として働いている和尚の方々、真光寺のスタッフ、ありがとうございました。そして大御祥敬方丈には、本来私がやらなければならない作業のほとんどをやって頂きました、いつもありがとう、改めて感謝申し上げます。そして未熟な私の法戦式の法幢師となって頂いた師匠である岡本方丈、このような式を挙行して頂き、ありがとうございました。一層の精進を誓います。最後に、遠路真光寺まで来ていただき見守って頂いた会員の皆様、本当にありがとうございました。

■問答解説

今回出題された法問のうち、真光寺日記で登場しなかった残りの四問を解説いたします。

一問目　無心無心大無心

問：作者は無心無心大無心。乞尊意。**答**：何者かに恁麼を語話を為す。**問**：中々、語話そのままが無心でそう。**答**：咦や、無心無心大無心というは、空見外道の見解たり。**問**：尊意、尊意。**答**：乞処は見よ、以心伝心。**問**：正得、それが徹底無心の単伝でそう。**答**：断無の見を為すこと勿れ。**問**：珍重。**答**：万歳

大意：無心というとき、「無」にとらわれて、すべてを否定しつくすというような誤った見解に陥ることを厳しく戒めた問答。

二問目　大地に寸土無し

問：作者は、大地に寸土無し。乞尊意。**答**：何に依ってか両脚立地。**問**：中々、無寸土の処が衲子の立脚でそう。**答**：咦や、大地に寸土無しというは、脱体空開を留めて、祖門の行履と錯った事よ。**問**：尊意、尊意。**答**：乞処は見よ、大地厚さ三寸を増す。**問**：正得、増減も無寸土の自由でそう。**答**：無寸土の処、如何が脚跟を転ぜん。**問**：珍重。**答**：万歳。

大意：「大地に寸土無し」という言葉は、悟りの境涯を示す言葉である。そして、その悟りに安住している問者に対して、「大地厚さに三寸増す」という言葉を示し、悟りに留まることなく、また、日々の修行に満足することなく、常に精進しなければならないことを説いた問答。

三問目　諸法実相

問：作者は、雨竹松風、四時に新なり。乞尊意。**答**：諸法皆実相を云うぞ。**問**：中々、毫釐も差あれば天地懸かに隔たるぞ。**答**：春は花、夏はほととぎす。秋は月、冬雪さえてすずしかりけり。**問**：尊意、尊意。**答**：裏をみせ、表をみせて散る紅葉。**問**：正得、和尚又た如何。**答**：慚愧す、後人の軟弱なることを。**問**：珍重。**答**：万歳。

大意：四季にともなう自然の変化についての問いに対し、四季折々の情景や自然の景観などの全てはそれぞれに真実の姿であることを示し、その真実の姿が諸法実相であるという境涯に達することのむずかしさを説いている。

四問目　雪裡の梅花

問：作者は、雪裡の梅花只一枝。乞尊意。**答**：寒苦も節に誇ること勿れ。**問**：中々、祖室単伝の一枝でそう。**答**：咦や、雪裡の梅花只一枝というは、四時変更の一枝を留めて、祖室単伝の梅花と錯ったぞ。**問**：尊意、尊意。**答**：乞処は見よ、根に和して二つながら推倒だぞ。**問**：正得、推倒の時節に祖室の梅花が活潑潑地と開き申した。**答**：気を追い香を尋ぬること勿れ。**問**：珍重。**答**：万歳。

大意：雪の中に咲いた梅の花一輪、この一枝の梅花が生き生きと開いているところに、仏法があらわれている。しかしながら、現前の事実に対してとらわれの心をおこしてはならないことを教えている。

曹洞宗宗学研究所編「法戦式用語解説」より

上総自然学校（里山再生活動）

お米作りの一大イベントでもある稲刈りも無事に終わり、今年はおよそ三トンほどのお米を収穫できました。また、お米作りや自然観察会などのイベントに述べ四五〇名程の方にご参加いただき、今年も賑やかな自然学校となりました。参加者の方の二大特徴としては、①子供（乳幼児～小学校低学年）に自然と触れ合う体験をさせてあげたいというご家族②都市で働く単身者（主にＩＴ関連）が挙げられます。皆さん自然の中で体を動かし伸び伸びとした時間を楽しんでおられる様です。「昆虫など自然に対する興味が増えた」「感謝してお米を食べるようになった」「台風や日照りが続くと田んぼが気になるようになった」などのお声も頂き、ここでの体験が日常生活の中に少し良い変化をもたらしている事を嬉しく感じます。また来年も多くの方々のご参加お待ちしております。（張）

イベント日程

『手作り凧あげ』◇
・一月二十五日（土）　十三時～十五時

『ごま豆腐作り』◆
・二月二十日(木)　十三時～十六時

『植樹＆田の修復』★
・三月八日(土)　十時～十五時

『焚火パン作り』☆
・三月十五日（土）　十三時～十六時

『畦塗』★
・四月十二日（土）　十時～十五時
十三日（日）　※各日日帰り

『よもぎ餅作り』☆
・四月十九日（土）　十四時～十六時半

『巨木トレッキング』◇
・四月二十七日（日）　十三時～十六時

〈参加費〉
各イベント名の下にある記号です。
★大人 二千円/小学生 千円
◆大人 千円/小学生 五百円
◇五百円
☆八百円
※未就学児無料
※すべて保険代込

〈申込み方法〉
参加される方の①氏名②住所③連絡先④生年月日⑤血液型⑥緊急連絡先（ご本人様が怪我をした時などの連絡先）を明記の上、メール・ファックス・電話でお申込みください。（連絡先は最後のページに記載があります）

里山の昆虫探し。子供達は見つけるのが得意！

紫米草取り＆ヨガ。野外ヨガ、気持ちいい。

草取りイベント。夜はこの場所でホタル観賞。

カブトムシたくさん！

収穫祭。段々田んぼの最上段の湿地帯の土を掘って水を集めると池になる。この池はたくさんの生物の住処になることでしょう！

里山の生物

トゲナナフシ

昆虫綱ナナフシ目ナナフシ科

草食性の昆虫で、木の枝に隠蔽擬態(外敵から身を守るために別の物に擬態する)することが特徴。色・形・質感と上手に擬態し自在に身を隠している。また卵も植物の種に擬態しており見事である。熱帯から温帯に分布し単為生殖を行って子孫を残す。雌の子のみを産む産雌単為生殖なので雌しかいないと思われていたが、2009年に野外で初の雄が発見される（飼育下では1977年に雄が発見されている）。しかし野外で発見されたのはこの一匹のみである。

千葉県レッドリスト・C
（要保護生物）

収穫祭では足踏み脱穀機で昔ながらの脱穀を体験。

二日間でなんと90合ほどのお米を炊きました！おにぎりを作って田んぼでランチ

冬の間に整備したマウンテンバイクトレイルコースを周遊。段々田んぼの地形を生かしたなかなかのテクニカルコースに仕上がっています。今冬もコース整備進めます。

今年は各地に甚大な被害をもたらした台風。ここ川原井地区でも道路が崩れるなど、色々なところで被害が出ています。
　写真は梁が土砂崩れを起こして田んぼに流れ込んでいるところです。畦も何か所も崩れ、今冬は復旧作業に追われそうです。

修証義に学ぶ

前回の誌上で真光寺の田んぼつくりを紹介してから、おおぜいの東長寺檀信徒の皆さんや、東長寺縁の会の皆さんから、「稲の調子はどうですか」と、声をかけていただきました。幸か不幸か、千葉県は梅雨にほとんど雨が降らず、大渇水となってしまいました。六月から七月下旬までの雨量はわずかに二～三ミリという、深刻な日照りでした。お陰でため池は干上がり、田んぼもひび割れて、からからになってしまいました。

もちろん、私たちは手をこまねいていたわけではありません。この間ため池の水を少しずつ田へ引き、池が干上がってからは、谷の奥深く、三メートルもある萱や葦におおわれた湧き水の出口までの水路を切り開き、そこから百メートルのホースで田に直接水を入れたりしました。それでも異常な高温と乾燥状態のため、田んぼが水を豊かにたたえることはありませんでした。田んぼで使う水は相当の水量で、よほどしっかりした貯水と、涌水の確保ができないとうまくいかないことを感じました。私たちの開墾した田んぼほどではありませんでしたが、谷あいのほかの田んぼも水不足になっていました。近くの田んぼの持ち主が発電機を持ち込み、昔養魚場を行っていたときに使っていたポンプを動かして水をため池に揚げていたので、そこから水を分けてもらって田んぼに入れてしのいでいました。七月末に接近した台風による雨は、本当に恵の雨でした。

しかし日照りが悪いばかりではありません。田んぼにとって怖いのはカビの一種である「いもち病」です。これが少しでも発生すれば一キロ四方は飛散して、田んぼが全滅することもあるという怖い病気です。この「いもち病」は高栄養になった田んぼで湿気が多いと発生するようです。私たちの田んぼは養魚場として使われていたため、魚の糞が堆積して、肥料がたくさんあったのです。「稲が焼ける」というそうですが、私たちの稲は、葉が濃い緑色になっていて、完全に高栄養状態でした。しかし乾燥していて雨が少なかったため、病気になることはありませんでした。そのおかげで今のところわずかな農薬で育てることができているのです。

今、田んぼには穂が出はじめ、稲の花が咲いています。なかなかの育ち具合です。収穫が楽しみになってきました。苦労も多いけれど、難題を一つずつクリアしていく喜び、稲が生長していく喜びを感じています。そしてこのノウハウが来年の稲作りに生かせるよう、すでに準備をしています。本誌を通じておいおいご報告したいと思います。

さて、先日私は中国の五台山を訪ねました。山西省にある五台山は、北京から車で六時間ほど走った黄土高原の中にそびえる中国四大仏教聖地の第一といわれ、歴代の皇帝もしばしば巡礼に訪れたという歴史ある名山です。文殊菩薩の道場とされ、どの寺にもさまざまな形の文殊菩薩がまつられています。「五台」という名の通り、標高三千メートル近い五つの峰があり、その頂上にそれぞれお寺があります。五つの峰に囲まれた谷あいにたくさんのお寺が集まった台懐鎮というところは、大通り一本の左右に広がる小さな町ですが、ホテルや土産物屋や食堂が軒を並べ、観光地らしいにぎやかさに包まれていました。三千メートルの山中というと日本では深山幽谷を思い浮かべますが、五台山は裾野から頂上に到るまで見事な禿山です。長い歴史の中で木は切りつくされ、耕地になったり、羊の放牧が行われ、ついに草の山になってしまったのです。そこで、現在国を挙げて緑化が進められています。

中国の仏教は文化大革命で徹底的に破壊されました。お寺は打ち壊され、経典は焼かれ、僧侶は還俗させられてしまいました。文化大革命が終わってからは、政府の援助で、有名寺院からどんどん修復が進んでいます。それぞれの寺院の境内でも信者から寄付を募り、急ピッチで伽藍を復興しているようです。文化大革命を逃れた数少ない僧侶が中心となって僧侶養成が進んだ結果、今では修行もしっかり行なわれるようになり、かつての姿を取り戻した寺院も増えています。五台山には台懐鎮を中心に五十あまりの寺がありますが、多くの寺に僧侶の姿があふれ、活気にあふれた様子を見ることができました。

現在、中国は仏教ブームといわれています。経済的に豊かになった人々が、心の平安を求めているといったところでしょうか。今回驚いたのは五台山に中国各地からバスをしたて、あるいは北京などから自家用の乗用車で続々と信者の方が集まって来ていることでした。ちょうど訪れたのが週末ということもあり、その数は膨大です。さらに五台山第一の叢林、碧山寺では「大授戒会」が

一ケ月にわたって行なわれていました。授戒とは仏の戒律を守ることを誓い、戒名をいただき、在家の仏教信者になることです。誰から戒名をもらうかは重要で、中国では在家信者であっても戒名を授けてもらった和尚とともに修行を行ないます。この「大授戒会」には全国から信者が大勢押し寄せているようでした。

その授戒会にあわせて開かれたのかもしれませんが、「斎会」という行持が行われているところに出くわしました。「斎会」とは「さいえ」あるいは「ときえ」と読みますが、僧侶を集めて昼食を供養する法会です。台懐鎮の中心にある、尼僧さんの学校（仏学院）として新しく建てられた巨大なお寺が会場になっていました。ちなみに、そこには七百名の生徒がいるそうです。門から法堂までの百メートルほどの参道には、仏学院の生徒である尼僧さんが両側に合掌して整然と並び、その間を五台山の内外から集結した老若男女、さまざまな姿をした僧侶が進んでゆきます。近くの寺から百名位の僧侶が行列を組んで整然と入場したり、ちょっとあやしげなラマ僧が高級車で乗りつけたりしているのを見ると、漢族の仏教であっても、モンゴル族やチベット族の信じるラマ教であっても、また禅や浄土など宗派の区別もなく、僧侶であればだれでも参加できるようです。参集した僧侶の数は膨大で、おそらく三千名は下らないと思いました。当然、お斎を供養する信者さんも、バスを連ねてそのお寺に吸収されていきます。時至って太鼓が鳴り響き、三千僧の読経の声が谷じゅうに響き渡り、その荘厳さに思わず手が合わさるような感慨をおぼえると同時に、中国仏教の復興を強く感じました。

五台山最後の日、私たちは空港のある太原という町に出るためにタクシーをチャーターしました。途中にある古寺を参観しながらの片道六時間の旅です。ところが、五台山のふもとの小さな町に着いたころからドライバーの携帯電話がしきりと鳴り出し、何やらいそがしく連絡を交わしています。これは何か起こるかもしれないなと覚悟していると、案の定、緊急事態の発生です。斎会や授戒の関係でたくさんの高僧が五台山に集まったため、山上の乗用車が不足してしまったというのです。自らも仏教信者だというドライバーは、師匠筋の高僧からどうしてもと頼まれ山に戻らなければならないが、五台山のラマ教寺院でいっしょに修行をしている彼の兄弟子がちょうど太原に向かうので、その車に便乗してほしいと言います。中国を個人で旅行していると、このようなアクシデントは避けて通れません。田舎町で放り出されては大変なので、ほどなく落ち合った二人連れの中国人の車に乗せてもらい、太原の空港へと向かうことになりました。

二人の中国人は私たちのことをずっと中国人だと思っていたようですが、実は日本人だとわかると大いに驚き、食事をご馳走してくれました。お互い仏教徒ですから話題は尽きません。そんな中で、「修行で五台山に来て今日戻るそうですが、中国では在家の信者は何日間ぐらいお寺で修行をしますか」となにげなくたずねると、「私たちは命の源を知るために仏教を学んでいます。だから体は町に帰っても、心は一生五台山で修行を続けているのです」という答えが返ってきて非常に驚きました。八百年前の中国で「日々これ行持、日々これ仏道」の教えに出合った道元禅師の衝撃を、まさか現代の中国で追体験できるとは思ってもみないことでした。

『正法眼蔵』『学道用心集』に「龍樹祖師の日く、ただ世間の生滅無常を観ずる心もまた菩提心と名づくと」とあります。「発菩提心」とは、仏の心をおこすということです。「生滅無常」をわかりやすくいえば、私たちはいつ死ぬかわからないということで、つまり「人はいつ死ぬかわからないということを観じたそのときに仏の心になっている」というわけです。

考えることのできる動物である人間は、命を得てより大問題を抱えています。それは「自分はなぜ生まれてきたのか」、そして「私は人として何をするべきか」という問いです。この疑問は飢えや戦争、病気など人間に危機が訪れた時に迫ってきますが、長命で平和な日本では、あまり顧みられることのない疑問です。分業制が確立された現代文明社会では、命の苦しみにぶち当たっても、医者やカウンセラーなど他人に自分を任せることで、この疑問に直面することをまぬがれてきたといえるかもしれません。この疑問を持ったことのない人や避けて通ってきた人は、自らの欲望を即物的に満たしていくことを繰り返します。動物としての人間が、欲望の満足をもとめることは本能のなせる業ですから、それは当たり前のことです。

しかし人間にとってどうしても当たり前と思えないことがあります。たとえば、その一つは「死」です。「死」ほど当たり前のことはないのに、特

に自分の死は当たり前とは思えないのです。自分が死ぬという大問題にぶち当たったとき、人は、「なぜ生まれてきたのか」「なぜ死ぬのか」「何をすべきか」という根源的な疑問と真正面から対峙します。このとき、生きるということが「他人ごと」から「自分ごと」になるのです。

この気持ちが菩提心だとすれば、有意義な人生を送りたい、少しでも自分の命の価値を見出したいと考えている人は、いつでもその心を持っているということになります。そういう生き方をする人の人生は発見の連続です。病気になれば病気の痛みとはこういうものかという発見があるでしょうし、死ぬときにさえ、死とはこういうものかという発見があるかもしれません。他人ごとのように感じていたことが自分ごとになった瞬間に、「こんなこともあるのか」という発見があり、前向きな気持ちで生きていくことができるのではないでしょうか。このように考えると、まさに中国人の仏教徒の方が提示されたように、人生は命の源をさぐる修行の旅だと思えてきます。

菩提心、つまり仏心とは観無常心ともいえますが、ただそれだけではないのです。仏心はすべてを自分ごとに考えて、自分の人生を豊かにしようと思えばいつでも皆さんの心に現れます。自分の命の源をさぐる旅に出れば、いつでも皆さんの心に現れるのです。それはだれでも持っているものであり、常にあるものではなく、気づかなければ現れないものでもあります。自分の心の仏心に気づきさえすれば、その瞬間世の中のすべてのものが輝いて見え、いとおしく感じられるのだろうと思うのです。私はその瞬間がさとりだと考えます。

毎日当たり前のように食べていたお米を育てるとはどういうことか。これまでの私には、耳学問や本で仕入れたそこそこの知識もありました。しかし、それを自分で実際に行なってみたことで、当たり前と思っていたことが次々と当たり前でなくなりました。米作りが自分ごとになったのです。今は毎日が発見の喜びで、うきうきしています。そして、だんだんと当たり前に食べていた米がいとおしくなってくるのです。もちろん自然が相手のことですから、さまざまな迷いやトラブルもあります。

私は米つくりの中でさとりと煩悩を繰り返しています。しかし、一生懸命にそれに取り組む限りにおいては、私は仏心を持って人生の発見を重ねていると言えると思うのです。

『修証義』第三章までに示されていることはある意味当たり前のことです。自分の人生を有意義にしたいとか、命の源を探りたいという気持ちのない人は、まさに当たり前のことで終ってしまうのです。もしそれらが自分ごとになって、少しでも自分の命に価値を求めれば、おのずとわかる世界が『修証義』の第四章に示されています。それは自分の人生を豊かにし、命を輝かせる術であり、そしてどうしようもなく自ずとすべてのものを慈しむこころなのです。そういう気持ちで味わっていただきたいと思います。

この文章は平成十六年九月発行 東長寺寺報『萬亀』に掲載されたものです。

平成二十六年 年回表

一周忌	平成二十五年
三回忌	平成二十四年
七回忌	平成二十年
十三回忌	平成十四年
十七回忌	平成十年
二十三回忌	平成四年
二十七回忌	昭和六十三年
三十三回忌	昭和五十七年
三十七回忌	昭和五十三年
五十回忌	昭和四十年
百回忌	大正四年

平成二十六年の年回法要のご案内です。ご法事の申込みは事前にお電話等でお申し込み下さい。ご法事の準備物は次の通りです。

□お位牌（自宅用が無い場合は不要）
□ご遺影
□生花・お供物（お寺でご用意できます）
□卒塔婆・花塔婆の申込み
※事前にＦＡＸ等でお知らせ下さい。
□お布施（三万円～五万円程度 お気持ちで）

行　事　予　定　表

行事の詳細は各ページに掲載しております。
- ■檀信徒　15ページ
- ■縁の会会員　15ページ
- ■自然学校　6ページ
- ■檀信徒・縁の会合同　14ページ・15ページ

ご寄進者ご芳名

金　参萬円　前川みよと　様
前川富久恵　様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。皆様からのご寄進は、当山寄進帳にお名前を記入し永く寺録に残させていただきます。

住職

平成26年　２０１４

1

1	水	
2	木	
3	金	修証会年頭祈祷
4	土	
5	日	
6	月	
7	火	七日法要
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	手作り凧あげ
12	日	
13	月	
14	火	
15	水	仏像彫刻
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	
20	月	
21	火	
22	水	
23	木	
24	金	
25	土	
26	日	
27	月	
28	火	
29	水	
30	木	
31	金	

2

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	仏像彫刻
6	木	
7	金	
8	土	七日法要
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	仏像彫刻
20	木	ごま豆腐作り
21	金	
22	土	
23	日	
24	月	
25	火	聖典講読
26	水	
27	木	
28	金	

3

1	土	
2	日	
3	月	
4	火	
5	水	仏像彫刻
6	木	
7	金	
8	土	七日法要
9	日	
10	月	
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	植樹と田の修復
16	日	
17	月	
18	火	
19	水	仏像彫刻
20	木	
21	金	縁の会彼岸会
22	土	
23	日	山門彼岸会
24	月	
25	火	聖典講読
26	水	
27	木	囲碁の会
28	金	↓
29	土	焚火パン作り
30	日	
31	月	

4

1	火	
2	水	仏像彫刻
3	木	
4	金	
5	土	七日法要
6	日	花まつり法要
7	月	
8	火	
9	水	
10	木	
11	金	
12	土	畦塗①
13	日	畦塗②
14	月	
15	火	
16	水	仏像彫刻　寺のある
17	木	↓
18	金	
19	土	ヨモギ餅
20	日	
21	月	
22	火	
23	水	
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	巨木トレッキング
28	月	紫陽花の参道
29	火	
30	水	聖典講読

5

1	木	
2	金	
3	土	赤米田植&サツマイモ植
4	日	
5	月	
6	火	
7	水	七日法要　仏像彫刻
8	木	
9	金	
10	土	
11	日	
12	月	
13	火	
14	水	
15	木	
16	金	
17	土	田植①
18	日	田植②
19	月	
20	火	
21	水	仏像彫刻
22	木	
23	金	
24	土	補植&ｹﾞﾝｼﾞ
25	日	田植＆ヨガ
26	月	
27	火	
28	水	
29	木	
30	金	
31	土	水路生物観察

6

1	日	
2	月	
3	火	
4	水	仏像彫刻
5	木	
6	金	
7	土	七日法要　ｹﾞﾝｼﾞ観賞
8	日	
9	月	
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	草取&ホタル（日帰り）
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	仏像彫刻
19	木	
20	金	
21	土	草取&ホタル（1泊）
22	日	↓
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	
29	日	草取&ﾖｶﾞ&ホタル
30	月	

行　事　予　定

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第１・第３水曜日
　　13 時 30 分～ 16 時 30 分
費用：3,500 円 / 1 回参加
場所:真光寺(参加者が３名以上で開催となります。)

仏師の方にご指導頂き仏像を彫っていきます。教室では初めての方でもご参加いただけるように、彫刻刀の研ぎ方から始め、地紋彫りで基本の小刀の使い方を一通り体験し、お地蔵さん、仏足、仏手、仏頭とそれぞれの方に応じたペースで徐々に立体に取り組みます。どなた様でもご参加頂けます。彫刻刀をお持ちでない方には無料で貸し出しをします。

入門編のお地蔵さま

集中した静かな時間

仏師の鈴木謙太郎さん

ヨ　ガ　教　室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月 1 回不定期開催
費用：3,000 円程度
　　(内容によって費用が変わります。)
場所：真光寺

お寺ヨガではヨガのみならず、坐禅、写経、精進料理などなどと組み合わせて、それらを通して仏教に触れ、学びを深めていきます。緑に囲まれた静かな環境でヨガができる贅沢さが魅力です。
こちらは毎月一回不定期で行われています。ご参加をご希望の方は真光寺まで日程をお問い合わせください。また、お寺のブログでも日程が決まり次第ご案内しておりますので、そちらも併せてご利用ください。

坐禅も人気です

お天気が良い時は境内庭でヨガ

写経。一文字一文字に集中します

地産地消の精進料理

寺のある暮らし 《檀信徒･縁の会会員》

日時：4 月 16 日 11 時集合・17 日 13 時解散
　　(一泊二日)
費用：7,000 円
場所：真光寺

定年を迎えた、伴侶を亡くした、心をリフレッシュしたい、そんな時にお寺に来てゆっくりして頂きたく、お寺を開放いたします。
朝のお勤めと、食事、就寝以外は自由です。イベントも用意してあり、畑作業、庭いじり、里山散策、囲碁など自由な時間を過ごせます。

精進料理と聖典講読の会 《檀信徒･縁の会会員》

日時：2 月 25 日・3 月 25 日・4 月 30 日
　　10 時 30 分集合～ 14 時 30 分解散
費用：3,000 円（昼食付）
場所：真光寺
テキスト：修証義

日帰り行事として聖典講読の会を開催いたします。住職による修証義解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅や写経をいたします。どちらも老若男女問わず気軽にご参加申込み下さい。

行　事　予　定

修証会年頭祈祷 《檀信徒》

日時：1 月 3 日（金）14 時より
新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念し大般若祈祷法要を行い、法要後には音楽会を行います。

山門春彼岸法会 《檀信徒》

日時：3 月 23 日（日）14 時より
春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予定しています。

花まつり法要・檀信徒総会 《檀信徒》

日時：4 月 6 日（日）11 時より
お釈迦様の誕生を祝います。法要後に総会を行います。

ご詠歌練習日 《檀信徒・縁の会合同》

1 月　21 日
2 月　11 日・25 日
3 月　11 日・25 日
4 月　 8 日・22 日
5 月　13 日
6 月　10 日・24 日
場所　真光寺
時間　20 時より（10 月～ 4 月は 19 時 30 分より）
※ご詠歌はどなたでもご参加できます。気軽にお問い合わせください。

七日法要 《縁の会会員》

日時：1 月 7 日（火）　11 時より授戒式・月例供養、午後は年頭祈祷法要・お焚きあげ供養
※前年の御札や御守、お正月のお飾りをお持ち下さい。合同でお焚きあげ供養をします。
2 月 8 日（土）　11 時より授戒式・月例供養、午後は坐禅・写経・写仏
3 月 8 日（土）　2 月と同じ日程
4 月 5 日（土）　11 時より授戒式・月例供養、午後はお釈迦様の誕生を祝い花まつり法要をします。
5 月 7 日（水）　11 時より授戒式・月例供養、午後は坐禅・写経・写仏
6 月 7 日（土）　5 月と同じ日程
※昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話でご予約下さい。午前のみ、午後のみの出席もできます。
※電車・バスで来られる方は送迎を致します。お電話等で申し込み下さい。送迎時間は次頁に掲載しています。

縁の会春彼岸法会 《縁の会会員》

日時：3 月 21 日（金）　11 時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。
※昼食準備の都合上、ご出席いただく場合は必ずお電話でご予約下さい。
※電車・バスで来られる方は送迎を致します。お電話等で申し込み下さい。送迎時間につきましては七日法要の送迎時間に準じます、次頁に掲載しております。

第1回真光寺囲碁の会 《檀信徒・縁の会合同》

日時：3 月 27 日（木）14 時集合　～ 28 日（金）13 時 30 分解散
費用：8,000 円　1 泊 3 食　定員 10 名
場所：真光寺
真光寺『囲碁の会』を初めて開催いたします。静かなお寺で自由に囲碁を打って頂き、息抜には里山散策などもできます。初心者の方大歓迎です（住職も初心者です）。お電話等でお申し込み下さい。

紫陽花の参道造り《植樹》 《檀信徒・縁の会合同》

日時：4 月 28 日（月）　午前 11 時より午後 2 時半解散　送迎時間は七日法要に準じます。
費用：1,000 円　昼食 精進料理
場所：真光寺
紫陽花の咲き乱れる参道を造るため、毎年さし木をしておりますが、職員の手だけではなかなか増えず、このたび檀信徒、縁の会の皆さまの手をお借りして、紫陽花の参道作りを行います。昼食は精進料理をご用意いたします。皆さまのご尽力をお願い申し上げます。7 月にはさし木を予定しています。お電話等でお申し込み下さい。

“お寺で初詣”　年頭祈祷法要のご案内（元日～３日）

新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念して個別のご祈祷を承ります。
右写真の木札を作成いたしますので、来山前にお電話等でお申し込み下さい。申込みが無い場合でもお受けできますが、お待たせすることがございます。

受付時間　午前９時～午後４時まで１５分刻み（元日～3日　３日は正午まで）
法要時間　約１５分
祈 祷 料　3,000円～5,000円程度
願　　意　木札に書き入れます、２つお選び下さい。

①家内安全　②諸災消除　③諸願成就　④如意吉祥　⑤交通安全
⑥合格祈願　⑦厄除守護　⑧身体健全　⑨当病平癒　⑩身体堅固
⑪良縁祈願　⑫安産祈願

そのほか、ご希望に応じてご祈祷いたします。

前年の御守、お札等がある方（当山以外の御守でもかまいません）はご持参下さい、お焚き上げいたします。

送迎のご案内【七日法要】

□電車の方
・上り電車の方（君津発千葉行き）
　JR内房線「袖ヶ浦駅」10時06分着
・下り電車の方（快速君津行き）
　JR内房線「袖ヶ浦駅」10時12分着

□バスの方
【土日祝】
・品川発9時30分→袖ヶ浦BT10時17分着
・横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
・川崎発9時25分→袖ヶ浦BT10時14分着
・新宿発9時05分→袖ヶ浦BT10時08分着

【平　日】
・品川発9時25分→袖ヶ浦BT10時12分着
・横浜発9時30分→袖ヶ浦BT10時09分着
・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時04分着
・新宿発9時05分→袖ヶ浦BT10時08分着

□お車の方
10時40分頃までにお越し下さい。

法事のおみやげのご案内

真光寺ではご法事の際の引き物を承ります。
真光寺で採れた無農薬のお米をはじめ、袖ヶ浦産であり当山檀家の山本製茶の銘茶をご用意してあります。
組み合わせは自由です、どうぞご用命ください。
金額には熨斗と手さげ袋も含まれております。

吟選白米1kg
1300円

銘茶　100g
1000円

古代米
150g×2袋
700円

各種お申込み連絡先

真光寺　　〒299-0201　千葉県袖ヶ浦市川原井634
TEL　0438-75-7414（代表）　TEL　0438-75-7365（縁の会事務局）　FAX　0438-75-7630
e-mail　ennokai@shinko-ji.jp（縁の会）　　satoyama@shinko-ji.jp（上総自然学校）